

北海道大学交流デー（ドイツ ブレーメン大学）を開催 インド マイソール大学と大学間交流協定を締結 北海道大学一般入試の志願状況

お知らせ

・ 過半数代表候補者の決定



1 男女共同参画と女性研究者支援の推進 を目指して

全学ニュース

- 2 北海道大学交流デー（ドイツ ブレーメン大学）を開催
- 3 インド マイソール大学と大学間交流協定を締結
- 3 北大生をグローバルに活躍する気にさせるセミナーを開催
- 4 北海道大学一般入試の志願状況
- 5 AO入試合格者の発表
- 5 第10回九州大学・北海道大学合同活動報告会を開催
- 6 平成26年度補正予算（第1号）案等（本学関係分）の主要事項
- 6 平成27年度予算案（本学関係分）の主要事項
- 8 北大フロンティア基金
- 9 第9回「食と健康」研究会を開催
- 10 第2回オープンファシリティシンポジウム・第1回設備サポートセンター整備事業シンポジウムを開催
- 11 北海道大学－高エネルギー加速器研究機構（KEK）第5回連携協議会及び第6回連携シンポジウムを開催
- 12 第34回 創成科学サロン「2015年 初夢を語る」を開催
- 13 保健センターで健康キャンパス北大「アレルギー対策とAED講習」を開催

部局ニュース

- 14 教育学院・教育学研究院・教育学部におけるESDキャンパスアジア平成26年度プログラム全日程を終了
- 15 教育学院・教育学研究院・教育学部が韓国ソウル大学校師範大学と学術交流会を開催
- 16 経済学研究科でシンポジウム「北海道における再生可能エネルギーの展望」を開催
- 17 メディア・コミュニケーション研究院で日韓国際セミナー「日韓両国の社会文化的視線と学問的交流」を開催
- 18 北海道大学－物質・材料研究機構（NIMS）連携10周年記念式典に参加
- 19 保健科学研究院が新営・改修完成リニューアル記念式典・内覧会・祝賀会を挙



教育学院・教育学研究院・教育学部
ESDキャンパスアジア平成26年度プログラム



経済学研究科
シンポジウム「北海道における再生可能
エネルギーの展望」



インド マイソール大学と大学間交流協定を
締結



北海道大学－高エネルギー加速器研究機構
（KEK）第5回連携協議会

- 20 農学院・農学研究院・農学部で「留学生新年会」を開催
- 21 附属図書館・大学文書館共催展示「“With malice toward none, with charity for all”——遠友夜学校の歴史」を開催

お知らせ

- 22 過半数代表候補者の決定

同窓会との交流

- 23 恵迪寮同窓会「新年寮唱歌始めの会」

レクリエーション

- 24 職員雪合戦部がサッポロオープン雪合戦レディースの部
で第3位入賞

諸会議の開催状況 25

学内規程 26

表敬訪問

- 26 国内
- 26 海外

人事 27

- 27 新任部局長等紹介

訃報

- 28 名誉教授 山本 正 氏



保健科学研究院
新営・改修完成リニューアル記念式典・
内覧会・祝賀会



農学院・農学研究院・農学部
「留学生新年会」

男女共同参画と女性研究者支援の推進を目指して

副学長 もちづき 望月 つねこ 恒子



昨年4月に男女共同参画担当の副学長に就任しました。同時に、人材育成本部長及び女性研究者支援室長という2つの役職にも就いて、早くも1年近くが経とうとしています。仕事の内容や自分の役目を理解して、すでに予定されていたプロジェクトなどを責任をもって実施するのに精一杯で、担当業務の全体を見回す余裕はありませんでした。今ようやく全貌が見えてきて、課題は何か、その解決に向けて何をすべきかを具体的に考え始めたところです。

人材育成本部では、従来からの上級人材育成ステーションと女性研究者支援室に加えて、昨年12月に連携型博士研究人材育成推進室を立ち上げて、3事業部門体制になりました。人材育成ステーションと推進室では、他大学との連携も含めて、若手研究者のキャリアパス多様化に向けて積極的な活動を行っています。その活動は非常に多岐にわたりますので、今回は女性研究者支援室と、男女共同参画推進についてのご報告に留めたいと思います。

女性研究者支援室について

女性研究者支援室は平成18年7月に開設されました。日本では大学教員における女性の割合が低く、特に理工系分野でそれが顕著です。この状況を是正するために、文部科学省は平成18年から次々にプログラムの公募を行い、本学はそれに応募して採択されてきました。平成18～20年度女性研究者支援モデル育成事業、21～25年度女性研究者養成システム改革加速事業、そして25～27年度は拠点型的女性研究者研究活動支援事業（本学のノウハウを道内の大学・企業等の連携機関と共有する）を実施しています。本学ではこれらのプログラムに加えて、ポジティブアクション北大方式*や、学内保育施設の充実、育児中の女性研究者への研究補助者の配置などの環境整備を行い、支援室が中核となってそれらを実施してきました。

女性研究者・教員比率について

本学の全研究者中の女性の比率を2020年までに20%に引き上げようという数値目標〔“20% by 2020”（Triple Twenties計画）〕は、今では全学的な目標として認められています。本学ではこの10年間、女性の研究者も教員も、右肩上がりが増えてつありますが、その伸びは大いに順調とはいえない現状です。数だけが重要なわけではありませんが、私はこの1年を振り返って、あらためて「まずは女性教員の増加を目指したい」と、切実に思っています。本学の正規教員の中で女性の教授がいかに少ないか（本年1月1日現在34人。男性教授689人。女性比率4.7%）を見ると、これでは、大学における男女共同参画はおぼつかないと考えからです。博士学位取得者の約3割が女性であることや、講師・助教の女性は近年大幅に増加していることを思うと、彼女たちが自由に進路を選び、それが継続できる環境を作りたいと思わずにはいられません。女性研究者支援のために、従来の施策を継続しつつ、さらに効果的な方法を検討し、実行に移したいと思います。

最後に、本学における男女共同参画推進の体制について、ひと言述べておきます。本学では平成16年度に男女共同参画委員会が設置されました。研究科・研究院、研究所等の組織の長で構成するトップレベルの委員会です。この委員会のもとに企画調査専門委員会が置かれ、専門的な調査と企画に当たることになっています。実はこの体制が、10年以上を経て少々機能しにくくなっているのではないかと、私は危惧しています。担当の副学長がひとりいるだけでは事は進みませんし、女性研究者支援事業との差異化も考える必要があります。これまでの経験を生かし、学内の多くの方々の意見を聞き、他大学や社会の動きも見ながら、男女共同参画事業を進めてまいりたいと思います。皆様のご協力をお願いいたします。

*ポジティブアクション北大方式

新たに女性教員を採用した場合、各部局が負担する人件費ポイントの2分の1を補填するシステム。

■全学ニュース

北海道大学交流デー（ドイツ ブレーメン大学）を開催

本学では、大学間交流協定校との共同教育・研究及び学生交流を更に促進するため、12月1日（月）・2日（火）にドイツ連邦共和国ブレーメンにあるブレーメン大学において、北海道大学交流デーを開催しました。

ブレーメン大学は、1971年に設立され、学生約2万人、研究者約1,500人が在籍する州立総合大学です。ドイツ国内のトップ11大学として“University of Excellence”に選出され、特に極域科学、海洋学、地球科学、宇宙科学技術分野で卓越した教育及び研究を行っています。本学とは2010年2月に大学間交流協定を締結しました。

大学交流デーの開会式には、ブレーメン大学から、ヤスミン カラカソール副学長他、教職員、学生等18名の出

席があり、本学からは、上田一郎理事・副学長をはじめ、各研究科等から合わせて31名の教職員が出席しました。

開会式は同校の海洋環境科学センターで行われ、ミカエル シュルツセンター長より当該センターの概要説明があり、施設見学を行った後、本学国際本部国際連携課の原口 希課長及びブレーメン大学のアネット ラング国際室長からそれぞれの大学の概要等の説明が行われ、その後、午後に行われる7つのワークショップの代表者から、その概要説明がありました。

開会式の後は、昼食を挟み、本学の上田理事・副学長及びブレーメン大学のカラカソール副学長から、それぞれの大学の国際交流に関する実績等の説明があった後、スラブ・ユーラシア研

究センターの宇山智彦教授、理学研究院の寺尾宏明研究院長、高橋幸弘教授、河村 裕国際化支援室長、工学研究院の名和豊春研究院長、水産科学研究院の齊藤誠一教授、低温科学研究所の福井 学副所長がそれぞれ代表となる分科会に分かれ、ブレーメン大学との研究交流を行いました。

今後もヘルシンキオフィスでは、欧州諸国の教育・研究機関等との連携拡大、教員や学生の相互交流の促進、卒業生ネットワークの構築を行い、学術面にとどまらない幅広い面での交流を強化していきます。

（国際本部国際連携課）



開会式の様子



上田理事・副学長の挨拶



ブレーメン大学海洋環境科学センター施設見学

インド マイソール大学と大学間交流協定を締結



調印式後の記念写真



山口総長とK.S.Rangappa学長（調印式の様子）

1月29日（木）、インドのマイソール大学と学術交流に関する協定及び学生交流に関する覚書の調印を行いました。インドで行われた調印式には、本学から山口佳三総長、出村 誠先端生命科学研究院長ら6名が出席しました。マイソール大学は、1916年に設立さ

れた総合大学です。人文科学、科学技術学、商業・経営学、教育学、法学に関する学部及び大学院を有し、学生約10万人と教職員約1,550人が在籍しています。本学では先端生命科学研究院を中心として、共同研究の実施、共同研究者の受入れ及び同大学で修士号を

取得した学生を本学博士課程に受け入れるなどの交流を進めてきました。

本協定の締結により、両大学の更なる教育・研究交流の推進が期待されます。

（国際本部国際連携課）

北大生をグローバルに活躍する気にさせるセミナーを開催

北大生をグローバルに活躍する気にさせるセミナーは、様々な分野において海外で活躍されている方を講師としてお迎えして、現在の業務経験に加えて、その方の学生時代から今日に至るまでのキャリア形成についてもお話いただき、参加者に海外で活躍することに関心を持ってもらうための機会を提供するものです。

1月13日（火）に開催したセミナーは、日本航空株式会社（JAL）の協力を得て、日本国内やアメリカにおいて航空機整備の経験豊富で、地球環境問題や安全問題にも精通している同社広報部担当部長兼安全推進本部付の阿部泰典氏を講師としてお迎えして開催しました。

航空会社の仕事全般から、JALが保有している機材や、エアラインのエン

ジニアの業務、そしてアメリカにおける阿部氏自らが体験した困難や喜びなどを具体的な業務を通してお話いただきました。また、整備だけの話に留まらず、実体験を通しての「グローバルな人材とは」などについて、参加者に対するメッセージもいただきました。

当日は、75名以上の学生並びに教職員が参加しました。参加した学生からは、「整備だけでなくエアライン全般の話が聞いて満足だった」、「具体的なキャリアパスが聞いてよかった」、「グローバルに活躍するには好奇心を持って活動することが大切だということが印象に残った」など、アンケートの8割は、セミナーに参加して「満足」あるいは「大満足」と答えており、セミナーは大好評でした。

国際本部では、来年度も、様々な分

野でグローバルに活躍されている方々を講師として招き、業務内容だけでなく、キャリア形成などについて講演していただき、学生が海外に羽ばたこうとする意欲を高める機会を提供していく所存です。

（国際本部国際教務課）



講演する阿部JAL広報部担当部長兼安全推進本部付

北海道大学一般入試の志願状況

平成27年度の本学一般入試の志願者は、前期日程5,705名、後期日程4,129名、合計9,834名となり、昨年度と比較すると305名減少し、倍率は4.0倍となりました。

入学試験日は、前期日程が2月25日（水）・26日（木）、後期日程が3月12日（木）となっています。

各学部・学科等の志願者数は、次のとおりです。

(学務部入試課)

平成27年度北海道大学一般入試志願者数

日程	学部・学科等	募集人員	志願者数	倍率	第一段階選抜 予告倍率	前年度 志願者数	前年度倍率			
前期日程	総合入試	文系	100	249	2.5	4.0	394	3.9		
		理系	数学重点選抜群	130	629	4.8	4.0	386	3.0	
			物理重点選抜群	235	723	3.1	4.0	666	2.8	
			化学重点選抜群	235	691	2.9	4.0	813	3.5	
			生物重点選抜群	177	474	2.7	4.0	496	2.8	
			総合科学選抜群	250	526	2.1	4.0	703	2.8	
	計	1,027	3,043	3.0		3,064	3.0			
	学部別入試	文学部	118	379	3.2	4.0	316	2.7		
		教育学部	20	61	3.1	4.0	51	2.6		
		法学部	140	246	1.8	4.0	340	2.4		
		経済学部	140	391	2.8	4.0	310	2.2		
		医学部	医学科	97	295	3.0	3.5	337	3.5	
			保健学科	看護学専攻	60	164	2.7	5.0	138	2.3
				放射線技術科学専攻	28	84	3.0	5.0	87	3.1
				検査技術科学専攻	28	85	3.0	5.0	106	3.8
				理学療法専攻	13	35	2.7	5.0	51	3.9
				作業療法専攻	13	37	2.8	5.0	33	2.5
小計		142	405	2.9		415	2.9			
計	239	700	2.9		752	3.1				
歯学部	30	150	5.0	6.0	92	3.1				
獣医学部	20	98	4.9	6.0	116	5.8				
水産学部	105	388	3.7	4.0	380	3.6				
合計	1,939	5,705	2.9		5,815	3.0				
後期日程	文学部	37	287	7.8	6.0	298	8.1			
	教育学部	10	89	8.9	10.0	77	7.7			
	法学部	40	276	6.9	6.0	340	8.5			
	経済学部	20	186	9.3	10.0	126	6.3			
	理学部	数学科	13	120	9.2	6.0	94	7.2		
		物理学科	5	93	18.6	6.0	126	25.2		
		化学科	23	164	7.1	6.0	162	10.8		
		生物科学科 生物学専修分野	10	84	8.4	6.0	118	11.8		
		生物科学科 高分子機能学専修分野	5	47	9.4	6.0	52	10.4		
		地球惑星科学科	5	59	11.8	6.0	71	14.2		
	計	61	567	9.3		623	11.8			
	医学部	保健学科	7	68	9.7	6.0	89	12.7		
		放射線技術科学専攻	7	74	10.6	6.0	102	14.6		
		検査技術科学専攻	4	36	9.0	6.0	40	10.0		
	理学療法専攻	4	36	9.0	6.0	40	10.0			
	計	18	178	9.9		231	12.8			
	歯学部	8	128	16.0	6.0	95	11.9			
	薬学部	24	271	11.3	6.0	280	11.7			
	工学部	応用理工系学科	34	261	7.7		366	10.8		
		情報エレクトロニクス学科	38	238	6.3		288	7.6		
		機械知能工学科	30	330	11.0		241	8.0		
環境社会工学科		53	341	6.4		334	6.3			
計	155	1,170	7.5		1,229	7.9				
農学部	53	441	8.3	6.0	539	10.2				
獣医学部	15	119	7.9	6.0	127	8.5				
水産学部	50	417	8.3	6.0	359	7.2				
合計	491	4,129	8.4		4,324	9.0				
総計	2,430	9,834	4.0		10,139	4.2				

AO入試合格者の発表

平成27年度AO入試のうち、大学入試センター試験を課す医学部及び工学部の合格者発表を2月10日（火）に行い、9名が合格しました。

昨年12月2日（火）に合格者発表を行いました理学部、歯学部及び水産学部と合わせ、合格者数は31名となりました。

（学務部入試課）

平成27年度AO入試合格者数等一覧

学部・学科等		募集人員	志願者数	倍率	合格者数	
理学部	物理学科	5	11 (2)	2.2	2 (1)	
	地球惑星科学科	5	17 (0)	3.4	5 (0)	
医学部	医学科	5	7 (0)	1.4	0 (0)	
	保健学科	看護学専攻	7	22 (15)	3.1	7 (6)
		作業療法学専攻	4	5 (3)	1.3	2 (1)
歯学部		5	14 (1)	2.8	5 (0)	
工学部応用理工系学科 (応用マテリアル工学コース)		4	5 (3)	1.3	0 (0)	
水産学部		20	51 (6)	2.6	10 (1)	
計		55	132 (30)	2.4	31 (9)	

※（ ）内は、道内高校出身者で内数。

第10回九州大学・北海道大学合同活動報告会を開催

北海道大学と九州大学は、両大学主催による「九州大学・北海道大学合同活動報告会」を1月10日（土）に東京都千代田区の都市センターホテルで開催し、一般参加者及び両大学OB・OGを含め約140名の参加がありました。

この報告会は、日本の北と南に位置し、先端的な教育研究活動を展開している両大学の活動を広く社会に理解していただくことを目的として毎年開催しているもので、10回目となる今回は、「女性研究者から見た科学・技術の未来予想図～グローバルエンカレッジ～」と題して、両大学の女性研究者の先進的な教育研究活動を紹介しました。

報告会は、九州大学の久保千春総長及び本学の山口佳三総長による挨拶・大学紹介で始まり、続いて川上伸昭文部科学省科学技術・学術政策局長よりご挨拶をいただきました。

引き続き、教員4名（九州大学 笹木圭子教授、本学 望月恒子教授、九州大学 安尾しのぶ准教授、本学 南保明日香准教授）による発表が行われました。

報告会の最後には、九州大学の井上眞理教授をコーディネーターとして、先に発表を行った4名をパネリストとして「女性研究者から見た科学・技術の未来予想図」と題したパネルディス

カッションが行われました。参加者からは様々な質問が寄せられ、講演者との間で活発な質疑応答が行われました。

また、報告会終了後、交流会を開催し、両大学の盛んな交流を図りました。

（研究推進部研究振興企画課）



挨拶をする山口総長



講演中の望月教授



質問に答える南保准教授



パネルディスカッションの様子

平成26年度補正予算（第1号）案等（本学関係分）の主要事項

平成26年度補正予算（第1号）案等（本学関係分）の主要事項は、次のとおりです。

事 項	摘 要
第1号（平成27年1月9日閣議決定） 【施設整備費補助金】 ○事務局本館（西）改築	<1,360㎡> ※〈 〉は全体新営面積を表す。

（施設部施設企画課）

平成27年度予算案（本学関係分）の主要事項

平成27年度予算案（本学関係分）の主要事項は、次のとおりです。

事 項	摘 要
（平成27年1月14日閣議決定） 【組織整備】 1. 学部 ○編入学定員の改訂 ◇文学部 人文科学科 2. 大学院 ○入学定員の改訂 ◇法学研究科 法律実務専攻 【特別経費】 プロジェクト分 全国共同利用・共同実施分 教育関係共同実施分 国立大学機能強化分 附属病院機能強化分 「学長のリーダーシップの発揮」を更に 高めるための特別措置枠 授業料免除等実施分 【施設整備事業】 ○環境資源バイオサイエンス研究棟改修 施設整備等事業（PFI事業14-11） ○工学部土木棟改築 〈国債2-1〉	第3年次編入学定員 △10名 入学定員 専門職学位課程 △30名 14件（3） 7件 3件 1件 1件（1） 1件（1） 1件 計28件 内訳は次頁のとおり （ ）は新規（5件）で内数 <<12,940㎡>> 〈 4,380㎡〉 ※〈（ ）〉は全体改修面積，〈 〉は全体新営面積を表す。

平成27年度特別経費内訳

【プロジェクト分】

事 項	部 局 等 名	事業期間
＜国際的に卓越した教育研究拠点機能の充実＞ 血管を標的とするナノ医療の実用化に向けた拠点形成 －がんを始めとする国民病を血管から治療する－	遺伝子病制御研究所	H26～H27
＜高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実＞ 総合若手人材育成事業 －若手博士研究者の社会活躍のためのキャリア意識改革と国際化の推進－ オープンエデュケーションを活用した先進的教育改革の拠点 「オープンエデュケーションセンター」の機能強化 持続的資源系人材育成プログラム	人材育成本部, 工学研究院 高等教育推進機構 工学研究院	H22～H27 H27 H27
＜大学の特性を生かした多様な学術研究機能の充実＞ 先端医療技術から先端生命科学への展開 －動体追跡技術から動体追跡科学へ－ 自然免疫のナノ領域での機能解明 －先端電子顕微鏡群との異分野融合－ 次世代型クロスカップリング反応が拓く分子構築イノベーション アイヌ・先住民との文化的共生に関する総合的研究 難治性疾患に立ち向かうバイオ融合医薬開発をモデルとする人材育成プラットフォーム構築 次世代ポストゲノム科学を活用した早期診断・予防法の実証的展開研究教育拠点の形成 ソフト&ウェットマテリアルが拓くライフイノベーション －高分子材料科学と再生医学の融合拠点形成－ 次世代省エネを指向した強発光性の希土類錯体ポリマー開発 －新規エレメントカップリング反応を鍵とするフォトニック錯体工学拠点の形成－ グローバルファシリティセンター －先端機器グローバル人材育成拠点構築－	医学研究科, 工学研究院, 先端生命科学研究院, 北海道大学病院 創成研究機構 工学研究院 アイヌ・先住民研究センター 薬学研究院, 医学研究科, 遺伝子病制御研究所 先端生命科学研究院 創成研究機構, 先端生命科学研究院, 医学研究科 研究戦略室 (実施主体: 工学研究院) 創成研究機構	H23～H27 H23～H27 H24～H27 H24～H27 H25～H27 H25～H27 H25～H27 H26～H27 H27
＜産学連携機能の充実＞ 北海道企業群によるナノ加工技術集積拠点の形成 －ナノインプリントによる生産技術の開発－	創成研究機構	H22～H27
計	14件	

【全国共同利用・共同実施分】

事 項	部 局 等 名	事業期間
統合物質創製化学推進事業 －先導的合成的の新学術基盤構築と次世代中核研究者の育成－	触媒化学研究センター	H22～H27
附置研究所間アライアンスによるナノとマクロをつなぐ物質・デバイス・システム創製戦略プロジェクト	電子科学研究所	H22～H27
低温科学研究の推進 －革新的低温科学の創出と展開－	低温科学研究所	H22～H27
感染癌の先端的共同利用・共同研究の推進	遺伝子病制御研究所	H22～H27
触媒化学研究拠点における公募型共同研究・情報発信事業 －持続可能社会のための触媒化学研究基盤の構築－	触媒化学研究センター	H22～H27
スラブ・ユーラシア地域研究にかかわる拠点	スラブ・ユーラシア研究センター	H22～H27
人獣共通感染症リサーチセンターにおける共同研究の推進	人獣共通感染症リサーチセンター	H22～H27
計	7件	

【教育関係共同実施分】

事 項	部 局 等 名	事業期間
水産科学・海洋環境科学教育推進のための練習船教育プログラムの開発と中核的拠点形成	水産学部	H24～H27
フィールドを使った森林環境と生態系保全に関する実践的教育のための中核的拠点形成	北方生物圏フィールド科学センター	H25～H28
寒流域における海洋生物・生態系の統合的教育のための中核的拠点形成	北方生物圏フィールド科学センター	H25～H28
計	3件	

【国立大学機能強化分】

事 項	部 局 等 名	事業期間
国立大学機能強化分		H26～
計	1件	

【附属病院機能強化分】

事 項	部 局 等 名	事業期間
地域医療拠点体制充実支援経費等		H27
計	1件	

【「学長のリーダーシップの発揮」を更に高めるための特別措置枠】

事 項	部 局 等 名	事業期間
「学長のリーダーシップの発揮」を更に高めるための特別措置枠		H27
計	1件	

【授業料免除等実施分】

事 項	部 局 等 名	事業期間
学内ワークスタディ実施経費		H26
計	1件	

(財務部主計課)

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動することとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報	16,567件 2,962,683,960円
基金累計額 （1月31日現在）	教職員の寄附率 33.8%（1,327件/3,921人）

1月のご寄附状況

法人等1社、個人58名の方々から2,455,500円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、総合博物館への銘板の掲示について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

一般社団法人江別医師会

寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	浅野 賢二	入澤 秀次	小内 透	小原 大和	埴山 雅秀	金川 眞行	亀貝 一義
河本 充司	齊藤 久	崎山 幸雄	三升畑元基	四方英四郎	清水 智之	杉村 興作	須田 孝徳
瀬名波栄潤	高波 鐵夫	高橋 光彦	丹野千枝美	土家 琢磨	寺澤 睦	豊田 威信	中村 隆信
西村 修	橋本 守	長谷川和子	福井 滋	古山富士弥	水野 佑亮	山内 隆嗣	山崎 賢司
山田佳世子	吉田 広志						

銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

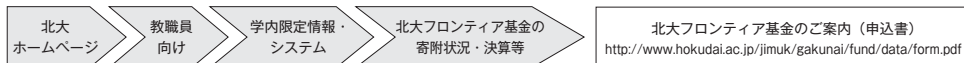
（個人）

崎山 幸雄, 四方英四郎, 西村 修, 橋本 守, 福井 滋

ご寄附のお申し込み方法

① 給与からの引き落とし

申込書は、本学ホームページの「学内限定情報・システム」からダウンロードし、ご記入の上基金事務室に提出してください。



② 郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお渡します。

③ 現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、事務局財務部経理課収入担当にご持参ください。申込書は、本学ホームページから上記①の要領でダウンロードしてご記入いただくか、各局局事務担当及び事務局財務部経理課収入担当にご用意していますので、ご利用ください。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室（事務局・学内電話 2017）

（総務企画部広報課）

第9回「食と健康」研究会を開催



会場の様子

1月13日（火）に医学部学友会館フ
ラテ2階特別会議室において、産学連
携本部が主催する第9回「食と健康」
研究会を開催しました。今回は「運
動」をキーワードとして、福岡大学ス
ポーツ科学部の田中宏暁教授より「肥
満、糖尿病、高血圧、脂質異常症に対
する運動療法はスロージョギングだ」
と題してご講演いただきました。田中
教授は、NHK番組「ためしてガッテ
ン」などでもおなじみの「スロージョ
ギング」の提唱者で、市民マラソンラ
ンナーとして有名な川内優輝選手の指
導も行っているらしいです。また、
沖縄を舞台とした健康ツーリズムにつ
いてもお話しいただきました。

次に、天使大学の武蔵 学学長に
「スポーツ貧血はIL-6、ヘプジンと関
連するか？」と題して、スポーツ貧血
についてご講演いただきました。ス
ポーツを習慣的に行う方の中には「ス
ポーツ貧血」と呼ばれる貧血症状が現

れることがあり、その発症メカニズム
についてお話しいただきました。

若手研究者による研究発表では、本
学医学研究科免疫・代謝内科学分野の
中村昭伸助教より「生活習慣病予防に
おける日本食の意義」と題して、2型
糖尿病の発症メカニズムや日本食の摂
取による肥満防止、糖尿病の予防につ
いての話があり、参加者は最後まで真
剣な眼差しで耳を傾けていました。

本研究会では、「食と健康」をテー
マに学内外の講師、若手研究者が研究
成果等を発表するとともに、企業等の
皆様との意見交換の場を設けていま
す。安全・安心で高品質な「食」に恵
まれた北海道において、「食」「健
康」「医療」分野におけるプロジェク
トの立ち上げを目的とし、その取り組
みを創出する産学官のプラットフォーム
を構築するため、定期的を開催して
います。

本研究会の事務局は産学連携本部が



福岡大学スポーツ科学部 田中教授



天使大学 武蔵学長



医学研究科 中村助教

担っており、今後も皆様の期待に応え
られるよう、新たなプロジェクト形成
に向けて、関係者のご協力を得ながら
具体的な成果の創出を目指して参ります。

本研究会に興味のある方は、お気軽
にお問い合わせください。

◆ jigyo@mcip.hokudai.ac.jp

（産学連携本部）

第2回オープンファシリティシンポジウム・ 第1回設備サポートセンター整備事業シンポジウムを開催

1月22日（木）、フロンティア応用科学研究棟オープンホールにおいて「第2回オープンファシリティシンポジウム」、「第1回設備サポートセンター整備事業シンポジウム」を開催しました。全国から、大学、法人、民間企業など参加機関20機関、参加者延べ150名が参加し、「第2回オープンファシリティシンポジウム」では本学における共同利用設備の現状と未来について、「第1回設備サポートセンター整備事業シンポジウム」では各大学による報告と将来ビジョンについて報告や議論が行われました。

「第2回オープンファシリティシンポジウム」では、2件の講演、2件の報告が行われました。招待講演者として広島大学よりお招きした、技術センター長の山本陽介教授（理学研究科）に「広島大学における研究基盤整備の取組」をご紹介いただき、広島大学における技術センターの現状や装置及び技術職員の雇用問題などハード・ソフト両面にわたる課題を中心にお話しいただきました。また、共用機器管理センター長兼オープンファシリティアラットフォーム長の網塚 浩教授（理学院）からは「北海道大学の共同利用設備運営の方向性」と題して講演

があり、電子科学研究所の居城邦治教授、創薬科学研究教育センターの前仲勝実教授より、本学オープンファシリティシステムの活動状況及びユーザーとしての意見がありました。本学だけでなく他大学の参加者からも多くの質問があり、後半の意見交換の時間が足りなくなるほど白熱した意見交換が行われました。

続いて午後開催した「第1回設備サポートセンター整備事業シンポジウム」は、平成23年度より開始された文部科学省設備サポートセンター整備事業採択大学11校の内10校が一堂に会する初めてのシンポジウムとなりました。上田一郎理事・副学長（技術支援本部長）による開会の辞で始まり、基調講演として文部科学省研究振興局学術機関課の岡本和久課長補佐に「学術研究を取り巻く動向と設備サポートセンター」と題してご講演いただいた後、本学の江端新吾URAがファシリテーターとなり各事業採択校の実施状況に応じてパネルディスカッションを行いました。前半は第2期（平成24～26年度）採択校の4校の代表者が登壇し、本事業の現状と課題というテーマで討論を行い、後半は第1期（平成23年度）採択校の6校の代表者が加わり、

研究基盤整備における大学の戦略・将来ビジョンというテーマで大討論会を行いました。計150分にもなった2つの討論では、「事業採択校間及び地域間連携」「共同利用料金の設定」「共同利用予約システムの整備」など機器共用に係る課題が浮き彫りとなりました。本シンポジウムを機に第2回のシンポジウムへと継続した議論の場の設定の重要性を共有することができました。

両シンポジウムを終えて、アンケートでは参加者の9割以上の方から、内容に“満足”“まあ満足”との回答があり、「非常に重要な取組であると理解できた」「各機関の取組状況が把握できて大変参考になった」「討論の時間をもっと多く取って欲しかった」などの意見が寄せられ、設備の共同利用への関心の高さがうかがえました。

シンポジウムに関する資料については、本学のオープンファシリティアラットフォーム事業推進室Webサイトにて公開予定です。

研究開発活動において、「研究開発プロジェクト」とそれを支える「研究基盤」は車の両輪に例えられます。大学を含め研究機関において、研究に利用される設備は重要な研究資源です。研究基盤が効果的に整備されていなければ先端研究の促進や新たな研究の種も花を咲かすことは困難になります。大型・先端設備の共同利用は研究促進の一翼を担うものです。ご興味のある方はぜひご覧ください。

◆<http://kkyoka.oaic.hokudai.ac.jp/open/facility/>

（創成研究機構）



（左）網塚共用機器管理センター長
（右）招待講演を行う広島大学 山本技術センター長



（左）居城教授 （右）前仲教授



第1回設備サポートセンター整備事業シンポジウムの様子

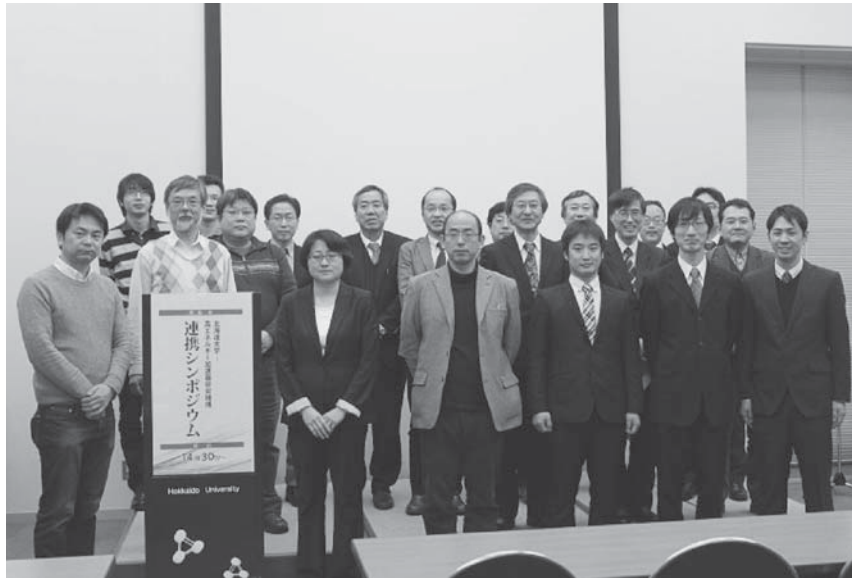


（左）上田理事・副学長
（右）基調講演を行う文部科学省 岡本課長補佐



11名のパネラーが登壇した
パネルディスカッション

北海道大学－高エネルギー加速器研究機構（KEK） 第5回連携協議会及び第6回連携シンポジウムを開催



シンポジウム集合写真

1月28日（水）、北海道大学－高エネルギー加速器研究機構（KEK）第5回連携協議会、及び第6回連携シンポジウムを、創成科学研究棟セミナー室及び大会議室において開催しました。

はじめに、大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構（KEK）の野村昌治理事よりKEKの現状について、本学創成研究機構の網塚 浩副

機構長より本学の現状について、産学連携や人材育成の話を中心に説明がありました。引き続き、KEK物質構造科学研究所（IMSS）の山田和芳所長より、IMSSの現状及び将来構想について説明があり、本学触媒化学研究センターの朝倉清高センター長より今年度の加速器科学研究会の活動報告があった後、工学研究院の梅垣菊男教授よ

り、北海道大学病院陽子線治療センターの現況について説明がありました。

協議会終了後は、若手研究者を中心とした発表者による連携シンポジウムが開かれ、活発な質疑応答、意見交換がなされました。

（創成研究機構）



連携協議会の様子



連携シンポジウムの様子

第34回 創成科学サロン「2015年 初夢を語る」を開催

創成研究機構では、1月26日（月）、創成科学研究棟1階レストランポプラにおいて、北キャンパス周辺機関などとの交流を主な目的として、第34回創成科学サロン並びに北キャンパス合同新年会を開催しました。

今回のサロンは、「2015年 初夢を語る」をテーマに、本学や企業の代表の方々に、今年の抱負・今後の構想等について語っていただきました。

網塚 浩創成研究機構研究支援室長の司会進行により、渡辺康正創成研究機構副機構長による「世界の夢・北大の夢」、株式会社日立製作所中央研究所の吉野正則シニアプロジェクトマネージャーによる「2015年初夢：COI-T 食と健康の達人」、日東電工株式会社の丸山景資執行役員・事業開発統括部長による「アンメットニーズへの挑戦、北大とともに」と題した

講演が行われました。

講演終了後は、地方独立行政法人北海道立総合研究機構の丹保憲仁理事長の挨拶及び乾杯の発声により新年会が開かれました。学内外から延べ59名の参加があり、産学官の垣根を越えた意見交換がなされ、親睦を深める機会となりました。

（創成研究機構）



渡辺副機構長による講演



株式会社日立製作所 吉野氏による講演



日東電工株式会社 丸山執行役員による講演



北海道立総合研究機構 丹保理事長による挨拶



会場の様子

保健センターで健康キャンパス北大 「アレルギー対策とAED講習」を開催

保健センターでは、1月27日（火）午後6時30分から7時30分まで、同センター1階ラウンジにおいて、健康キャンパス北大「アレルギー対策とAED講習」を開催し、16人の教職員・学生の参加がありました。

冒頭、橋野 聡センター長から、本講習を始めるに当たり「健康な方（病気がない方々）が対象ですが、健康を保っていただくために、積極的にいろいろな知識を持っていただくことが必

要と思い、健康キャンパス北大を企画しました」との挨拶がありました。

まず、保健センターの吉村 彩臨床検査技師から、アレルギー対策について統計報告の後、橋野センター長から、アレルギー対策についての解説と練習用のエピペン®（アナフィラキシー補助治療剤）を使用する実技が行われました。引き続き、医学研究科の横田 卓助教がAED（自動体外式除細動器）の取り扱い実技を行い、最

後に、橋野センター長から参加者全員に「修了証」が手渡されました。

参加した教職員・学生は熱心に受講し、質疑応答も活発に行われました。事後のアンケートでは、ほぼ全員の参加者から、両テーマ共に定期的に行われてほしいという希望がありました。

保健センターでは、今後も継続して本講習を企画・実施していく予定です。

（保健センター）



エピペンの利用法について説明する橋野センター長



横田助教によるAED講習の様子

■ 部局ニュース

教育学院・教育学研究院・教育学部における ESDキャンパスアジア平成26年度プログラム全日程を終了



集中サマーコース参加者の集合写真



集中サマーコース最終発表会の様子

教育学院・教育学研究院・教育学部は、「社会の持続可能な発展にとって教育の持つ役割は何か？」を主題とした双方向型短期留学支援事業であるESD（Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育）キャンパスアジア・プログラムを平成23年から開催しており、1月30日（金）、参加学部生の報告会の開催をもって平成26年度プログラムの全日程を終了しました。

本年度プログラムは、昨年8月17日から26日までの10日間にわたる集中サマーコースにより開幕し、アジアにおける有力学術協定締結校である韓国・高麗大学校、ソウル大学校、中国・北

京師範大学、タイ・チュラロンコン大学の学部生20名（各大学5名）が集結し、本学部生19名と共に総勢39名が英語によるESD関連講義、演習、総合討議に加え、国立日高青少年自然の家における野外宿泊研修（1泊2日）に参加しました。

秋季には集中サマーコースに参加した本学部生が4グループに分かれて、アジア連携4大学へ短期留学して海外学生との再会を果たし、各大学の特色あるESD主題の集中コースに参加しました（9月4日～13日・チュラロンコン大学、9月21日～30日・北京師範大学、10月25日～11月4日・高麗大学校、12月11日～20日・ソウル大学

校）。

本事業はアジアの有力協定校と連携し個別大学の枠組みを超えて連携大学における教員・学生の相互交流と教育的資産の共有化を実現するキャンパス環境の設営を目的としており、教室におけるESD学習ばかりではなく、日常生活の共有を通して達成される学生の国際的な人脈形成によって、世界的課題である持続可能で安心・安全な社会と平和な世界をどのように構築するかを将来にわたって考え続けていく次世代の力量形成が期待されます。

（教育学院・教育学研究院・教育学部）

教育学院・教育学研究院・教育学部が韓国ソウル大学校 師範大学と学術交流会を開催



参加者の集合写真

教育学院・教育学研究院・教育学部は、1月26日（月）に学術交流会館において、韓国ソウル大学校師範大学から副学長Jeong Yong KIM教授を団長とする教員7名、同付属小学校校長、中・高等学校教員5名、同大学職員2名の合計14名を迎えて、“Education and Future of Asia（教育とアジアの未来）”と題した学術交流会を開催しました。

交流会に先立って、ソウル大学校師範大学の一行は、文部科学省よりスーパーグローバルハイスクールの指定を受けている札幌開成高等学校を本部局の教員2名（白水浩信准教授、水野眞佐夫教授）とともに訪問しました。石

黒清裕校長と網谷和彦副校長による高校の概略紹介があり、一行は施設と授業を見学しました。

学術交流会では、小内透研究院長とKIM副学長の挨拶を皮切りに、セッション1「思春期の発達と行動」、セッション2「身体運動・スポーツと個人・社会」が開催され、各セッションでは両大学教員1名ずつの研究発表に続いて活発な質疑応答が行われました。最終セッションでは、本部局が主幹となり、ソウル大学校師範大学を含むアジア4大学（韓国・高麗大学校師範大学、中国・北京師範大学、タイ・チュラロンコン大学）との連携により平成23年から実施している学部生双方



小内研究院長の挨拶

向型短期留学支援事業であるESDキャンパスアジア・プログラムの成果と展望について、また、平成20年より本部局の教員とソウル大学校師範大学が中心となり毎年定期的に開催している理科教育に関わる国際シンポジウムの実績と今後の展望についてそれぞれ報告がありました。

今回の学術交流会の開催により両校の教育研究交流事業の持続的発展について合意することができ、今後の教員及び学生のさらなる活発な交流の継続が期待されます。

（教育学院・教育学研究院・教育学部）

経済学研究科でシンポジウム「北海道における再生可能エネルギーの展望」を開催

経済学研究科は、1月23日（金）に人文・社会科学総合教育研究棟W103教室において、吉田文和特任教授の最終講義に引き続いて、「北海道における再生可能エネルギーの展望」と題したシンポジウム及びパネルディスカッションを一般社団法人北海道再生可能エネルギー振興機構の共催、NPO法人北海道市民環境ネットワークと北海道エネルギーチェンジ100ネットワークの協力を得て開催しました。

吉田特任教授による最終講義では、再生可能エネルギーに関する最近の動向を踏まえた上での「再生可能エネルギー北海道創生プログラム」として送電線網の強化、中長期的な再生可能エネルギーシフトの明確化、再生可能エ

ネルギーの受益者を抜本的に増やすことなどについての提言がなされました。

これを受ける形で、吉田特任教授のほかには上田文雄札幌市長、石橋榮紀浜中町農業協同組合長及び森本昌和寿都町産業振興課参事をパネリストとして迎え、また一般社団法人北海道再生可能エネルギー振興機構の鈴木亨理事長をコーディネーターとしてパネルディスカッションが行われました。上田市長からは都市での省エネルギーの推進施策や熱の活用について、また石橋氏からは農家による再生可能エネルギーを利用した付加価値づくりと地域での設備の施工とメンテナンスを含めた再生可能エネルギー産業づくりについて、そして森本氏からは財政難から

の風力事業への取組み、系統運用や蓄電池の活用について、各自治体等の現況や画期的な方策等が提示され、活発な議論が行われました。また最後に吉田特任教授から、再生可能エネルギーは市民がエネルギーの消費者から生産者へなり得ること、市民の参加と情報の開示が重要になるとの見解が示されました。

当日は、本学の教職員・学生・卒業生、自治体、企業、一般の方を合わせて200名を超える参加者が会場に詰めかけ、盛会のうちに終了しました。

（経済学研究科・経済学部）



吉田特任教授による講義



シンポジウムの様子

メディア・コミュニケーション研究院で日韓国際セミナー 「日韓両国の社会文化的視線と学問的交流」を開催

メディア・コミュニケーション研究院と韓国研究財団が支援する「ネットワーク社会と共有価値」研究事業団による日韓国際セミナー「日韓両国の社会文化的視線と学問的交流」を、1月6日（火）にファカルティハウス「エンレイソウ」第1会議室にて開催しました。

建国大学校、延世大学校、ソウル大学校など6大学の構成員からなる同研究事業団は、社会科学支援事業（Social Science Korea）による大型プロジェクトとして、コミュニケーション、経営情報、コンピューター工学など文理融合の学際的、産学連携的な研究活動を展開しています。また、学術活動とともに国際的な連帯活動としてネットワーク構築にも力を入れており、この度、本研究院と共同で国際セミナーを開催しました。

団長の建国大学校の黄 勇碩（ファン・ヨンソク）教授は、韓国におけるオンライン・ジャーナリズム研究の第一人者です。これまでの融合メディア研究の経験を活かして、経済学、経営学の分野と連携を図りながら、市場経済と市民社会領域で個別に展開されてきた学問的視角を統合して学際的理論

化を目指すとともに、企業価値と公益的価値が相互結合する超ネットワーク社会における経済的・社会的価値を創出し、その共有価値を拡散する実践的課題にも取り組んでいます。

一方、拡張的な情報空間はますます拡大すると思われ、それに対応する研究領域を開拓していくことは避けられません。そうした意味で今回の日韓国際セミナーは、本研究院においても東アジアメディア研究を軸に領域横断的な協働を促進していく上で重要な意義を持ち、今後の国際的な共同研究への足がかりになったと言えます。

セミナーでは最初に、黄教授が「東アジアにおけるサイバー・ナショナリズムとオンライン葛藤」というタイトルで発表を行いました。日韓では、ともにネット空間で排外主義的なナショナリズムが活発化していますが、両国の比較分析を通して極端主義的な行動の特徴とサイバー・ナショナリズムの政治的・社会的意味を分析したことは、時宜にかなう喫緊の問題を提示するものでした。

続いて、本研究院の内田純一准教授（観光学高等研究センター所属）が「ソーシャル・メディア空間における

都市イメージ言説とデステイネーション・ブランディング」と題し、ソウルと東京の2大都市、さらに札幌を対象に、都市・地域のレベルで発信する観光メッセージが、旅行者の抱く都市・地域のイメージにどの程度の影響を及ぼすかについて考察した研究成果について発表を行いました。韓国側からは、従来のイメージ・マイニング研究に多く見られた企業広告メッセージによる製品イメージへの影響といった「モノ」分野から、観光地イメージという「コト」分野に研究の応用領域を広げる試みとして評価されました。

セミナーには、韓国側から11名、本研究院から13名が参加しました。各報告に対して日韓でそれぞれコメントを行い、刺激に満ちた総合討論を通して有意義な学術的交流ができました。なお、セミナーの開始に先立って記念品を交換し、懇親会では今後の共同研究の可能性も含めた持続的な交流の展望について話し合いました。

（国際広報メディア・観光学院、メディア・コミュニケーション研究院）



司会を務める清水賢一郎准教授



黄教授の報告

北海道大学－物質・材料研究機構（NIMS） 連携10周年記念式典に参加



集合写真

本学と独立行政法人物質・材料研究機構（NIMS）の連携が始まって10周年を迎えたことを記念して、1月14日（水）にNIMS主催による、北海道大学－NIMS連携10周年記念式典及びジョイントシンポジウムが開催されました。

現在、総合化学院、生命科学院及び理学院において、連係大学院あるいは連携研究室が設置され、NIMSの研究者が大学教員として博士後期課程の学生の研究・学位論文指導を担当しています。今回は、本学とNIMSの連携協定が最初に締結されてから10周年を迎えたことを記念して式典が開催されました。

当日は、NIMSからは潮田資勝理事長、北海道大学－NIMS連係大学院の

担当教員及び北海道大学－NIMS連携講座の担当教員などが出席し、本学からは山口佳三総長、連係大学院及び連携研究室に関連する理学研究院の加藤昌子教授、工学研究院の忠永清治教授、先端生命科学研究院の門出健次教授が出席しました。

式典では、潮田理事長と山口総長の挨拶の後、北海道大学－NIMS連係大学院教授の魚崎浩平教授（本学名誉教授）より、北海道大学－NIMS連携の歴史について講演がありました。この10年間の連携の歴史が詳しく紹介され、この連携がNIMS、本学の両者にとって研究・教育に大きな役割を果たしていることが説明されました。

引き続き、ジョイントシンポジウムが開催され、本学及びNIMSの関係者

が最近の研究トピックの紹介を行いました。

また、記念式典に先立ち、午前中にはNIMSで日頃研究活動を行っている、北海道大学－NIMS連係大学院博士後期課程の学生の間報告会が開催され、出席者との間で活発な議論が行われました。

記念式典及びジョイントシンポジウムには、学生を含め約50名の出席者がありました。今後も、NIMSと本学の連携がさらに発展し、この制度を利用することにより多くの優秀な研究者が育っていくことが期待されます。

（総合化学院）

保健科学研究院が新営・改修完成リニューアル記念式典・内覧会・祝賀会を挙行

保健科学研究院では、建物の新営及び改修工事が完了したことを記念して、1月9日（金）に「北海道大学大学院保健科学研究院 新営・改修完成リニューアル記念式典・内覧会・祝賀会」を挙行しました。

記念式典は、新たに建てられたE棟の多目的室で行い、学内外から200名を超える方々の参加がありました。式

典は伊達広行研究院長の式辞に始まり、三上 隆理事・副学長の挨拶の後、来賓祝辞として笠原正典医学研究科長、公益財団法人北海道科学技術総合振興センター（ノーステック財団）の西岡純二専務理事、松野 哲岩見沢市長、北海道大学病院検査・輸血部の松野一彦臨床検査管理医師にご挨拶いただきました。

式典終了後に行われた内覧会では、新棟と全面改修となった建物内のお披露目をしました。引き続き約120名の参加により盛大に行われた記念祝賀会でも、多くの皆様にお祝いの言葉をいただきました。

（保健科学院・保健科学研究院・医学部保健学科）



改修後の外観（東側）



完成したE棟



記念式典で式辞を述べる伊達研究院長



内覧会の様子



祝賀会の様子

農学院・農学研究院・農学部で「留学生新年会」を開催

農学院第29回「留学生新年会」を、1月9日（金）に農学部大講堂で開催しました。5ヶ国（中国、インドネシア、韓国、ミャンマー、タイ）の総勢78名の留学生が腕によりをかけ、餃子、チヂミ、カレー、ミーゴレンなど、各国の名物料理をふるまいました。農学院以外の留学生も多数参加

し、参加者は教職員と学生あわせて289名にのほりました。

新年会の後半には、各国の留学生による余興が行われました。中国人留学生によるブレイクダンスや太極拳、インドネシア・韓国人留学生によるダンス、タイ・ミャンマー人留学生による民族舞踊などが披露され、会場は大い

に盛り上がりました。

この新年会は、毎年開催しており、参加者にとって、料理を楽しむだけではなく、各国の文化について理解を深め、留学生と直接交流する良い機会となっています。

（農学院・農学研究院・農学部）



中国からの留学生



インドネシアからの留学生



韓国からの留学生



タイからの留学生



ミャンマーからの留学生

附属図書館・大学文書館共催展示「“With malice toward none, with charity for all”——遠友夜学校の歴史」を開催

1月9日（金）から、附属図書館正面玄関ロビーにおいて、附属図書館・大学文書館共催展示「“With malice toward none, with charity for all”——遠友夜学校の歴史」を開催しています。

遠友夜学校は、1894（明治27）年に札幌農学校教授であった新渡戸稲造と妻メアリーが、貧困等で学校に通えない子どもたちのために札幌（南4条東4丁目）に創設した学校です。当初は初等部の運営に主眼を置きましたが、後には時代の要請に合わせて中等部を整備しました。学校の運営には有志の

市民が当たり、宮部金吾、大島金太郎、有島武郎、半澤 洵といった札幌農学校・北大関係者が中心的な役割を果たしました。また、多くの農学校生・北大生が教師を務めました。1944（昭和19）年に戦時体制の中で50年に及ぶ歴史に幕を閉じました。

本展示では、昨年夏、本学が札幌市から受贈した「遠友夜学校関係資料」を中心に、附属図書館の蔵書や写真、大学文書館の沿革資料（高岡熊雄・半澤 洵・川嶋一郎関係資料、札幌農学校簿書等）を用いて、遠友夜学校がど

のような活動を繰り広げ、変遷していったか、本学の学生・教員がどのように関わったかを紹介しています。

展示は、（1）遠友夜学校の創立～「すべての人に慈愛を」、（2）初等部の活動～「是こそ楽しき極みなれ」、（3）中等部の新設～「夜学校はいつも君達の友です」、（4）戦争の影と閉校～「学問より実行」の4部構成です。

期間は、3月31日（火）までですので、ぜひご覧ください。

（附属図書館・大学文書館）



新渡戸夫妻を囲む遠友夜学校生徒と教師たち（1909年6月）



展示風景

■お知らせ

過半数代表候補者の決定

札幌キャンパス事業場（病院を除く。）における過半数代表候補者は、以下のとおり決定しました。

（総務企画部人事課厚生労務室）

職種・系区分		過半数代表候補者	
教 理 系	文系	（教育学研究院）	浅川和幸
	理学研究院	（理学研究院）	羽部朝男
	工学研究院・情報科学研究科	（工学研究院）	山形定
	上記以外の理系	（農学研究院）	東山寛
	医系	（薬学研究院）	金田勝幸
員	附置研究所・全国共同利用施設系	（遺伝子病制御研究所）	濱田淳一
	事務系職員	（財務部）	有田貴博
技 術 系 職 員		（学務部）	山内大造
		（触媒化学研究センター）	石川勝久
特任教員・契約・短時間勤務・嘱託職員		（附属図書館）	福盛田勉
		（研究推進部）	村上毅

■同窓会との交流

恵迪寮同窓会「新年寮歌歌始めの会」



予科と現寮生の新旧混成組



舞台上でマス席で寮歌を放歌斉唱

恵迪寮同窓会による新春の恒例行事「新年寮歌歌始めの会」を1月31日（土）、札幌市中央区の「氷雪の門」にて行い、恵迪寮OBや現寮生をはじめ道内外から寮歌をこよなく愛する約90名が集いました。

恵迪寮同窓会北海道支部の総会が行われた後、横山 清同窓会長による年頭の挨拶があり、次いで来賓を代表して本学の西口規彦総長補佐が祝辞を述べました。鏡開き、乾杯へと進み、参加者全員で名歌「都ぞ弥生」を斉唱して会の火蓋が切られました。

懐かしい諸先輩や旧友とのしばしの会食、歓談のあと、入寮年次ごとに登壇し、明治、大正、昭和にわたる代表歌20数曲を次々と歌い、現寮生からも昨年作られたばかりの「姫月に重ね

て」の披露がありました。

この間、中国語版「都ぞ弥生」や特別出演の小樽商科大学や京都大学OBによる「若人逍遥の歌」「紅燃ゆる」も昨年に続き高らかに歌い上げられました。参加者は血気盛んな青春時代そのままに大いに放歌高吟し、その歌声は会場の隅々にまで響き渡りました。時が過ぎるのも忘れ、会は3時間にも及びました。最後に全員で札幌農学校校歌「永遠の幸」そして再び「都ぞ弥生」を斉唱したあと、肩を組み足を上げて「ストームの歌」を高吟し、「歌始めの会」は無事終了しました。参加者は和気藹々のうちに来年の再会を誓い合い、会場を後にしました。

（総務企画部広報課）



「ストームの歌」を高唱



再会を誓い合い別離の歌でフィナーレ

■レクリエーション

職員雪合戦部がサッポロオープン雪合戦レディースの部で第3位入賞



3位に入賞した「余暇研Q」

1月24日（土）・25日（日）の2日間にわたり、第27回昭和南山国際雪合戦（以下「本戦」）の出場権をかけた道央ブロック予選「サッポロオープン雪合戦」が、ゆにガーデン（由仁町）で開催されました。

本学からは、一般の部に「余暇研究会」と「余暇研X」、レディースの部に「余暇研Q」が出場し、大会優勝と本戦出場権獲得を目指し、熱戦を繰り広げました。

レディースの部へ出場した「余暇研Q」は、予選ブロックを2位で通過し、午後の決勝トーナメントに駒を進めました。決勝トーナメント1回戦

は、昨年優勝チームとの対戦でした。フルセットの末、惜しくもポイント差1という僅差で敗れ、3位決定戦に進出しました。3位決定戦では、フルセットの末、セットカウント1勝2分けで勝利し、10年ぶりの入賞、第3位という好成績を収めました。

一般の部に出場した「余暇研究会」は予選ブロックで惜しくも破れ、決勝トーナメントには進めませんでした。「余暇研X」は予選ブロックを1位通過し、決勝トーナメントに駒を進めましたが、決勝トーナメント1回戦で、フルセットの末、セットカウント1勝2敗で惜しくも敗れました。

2月28日（土）・3月1日（日）に開催される本戦に向けて、より一層の好成績を残すことを誓い、大会を終了しました。

職員雪合戦部では、随時新入部員を募集しています。ご興味のある方は、以下までご連絡ください。

◆問い合わせ先

職員雪合戦部

幹事 佐藤：ta-sato@jimuhokudai.ac.jp

メーリングリスト：yokaken@ml.hokudai.ac.jp

（職員雪合戦部）

■ 諸会議の開催状況

役員会（平成27年1月13日）

議案・平成27年度年度計画の主な事項について

- 協議事項・中期目標・中期計画の変更（国立大学の機能強化等）について
- ・学校教育法の改正に伴う教授会審議事項等への対応について
 - ・現代日本学プログラム課程に受け入れる学生に係る奨学制度について
 - ・北極域環境研究センターの設置について
 - ・埋蔵文化財調査センターの設置について
 - ・全学運用教員の措置について
 - ・就業規則関連規程の一部改正について
 - ・諸規則の制定及び一部改正について

報告事項・副学長の任命等について

- ・平成26年度スーパーグローバル大学等事業スーパーグローバル大学創成支援の審査結果について
 - ・財務レポート2014について
-

経営協議会（平成27年1月19日）

議題・総長選考会議委員の選出について

- ・現代日本学プログラム課程に受け入れる学生に係る奨学制度について
- ・中期目標・中期計画の変更（国立大学の機能強化等）について
- ・平成27年度年度計画の主な事項について

報告事項・URA職の創設について

- ・役職員の給与について
- ・平成27年度予算（予定額）について
- ・平成26年度補正予算（第1号）について

その他・財務レポート2014について

教育評議会（平成27年1月21日）

議題・学校教育法の改正に伴う教授会審議事項等への対応について

- ・教育研究組織の長、副長及び附属施設の長の任命及び選考等に係る規程について
- ・教員の人事等に関する特例規則について
- ・教育研究評議会規程について
- ・現代日本学プログラム課程に受け入れる学生に係る奨学制度について
- ・中期目標・中期計画の変更（国立大学の機能強化等）について
- ・北極域研究センターの設置について
- ・埋蔵文化財調査センターの設置について
- ・教員の懲戒について
- ・教員の懲戒審査手続きについて
- ・諸規則の制定及び一部改正について

報告事項・副学長の任命等について

- ・平成27年4月1日付け以降に任命する教授候補者の選考について
 - ・大学間交流協定の新規締結について
 - ・全学運用教員の間評価の報告について
 - ・寄附分野の延長について
 - ・平成27年度予算（予定額）について
 - ・平成26年度補正予算（第1号）について
-

役員会（平成27年1月26日）

議案・現代日本学プログラム課程に受け入れる学生に係る奨学制度について

- ・中期目標・中期計画の変更（国立大学の機能強化等）について
 - ・北極域研究センターの設置について
 - ・埋蔵文化財調査センターの設置について
 - ・重要な財産を譲渡する計画について
-

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しております。

■ 学内規程

国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程

(平成27年1月1日海大達第1号)

本学のオープンファシリティについて、設備の追加を行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学百年記念会館規程の一部を改正する規程

(平成27年1月8日海大達第2号)

国立大学法人北海道大学学術交流会館規程の一部を改正する規程

(平成27年1月8日海大達第3号)

国立大学法人北海道大学ファカルティハウス「エンレイソウ」規程の一部を改正する規程

(平成27年1月8日海大達第4号)

事務手続きの効率化のため、各施設の申請及び許可に係る様式を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学学生寮規程の一部を改正する規程

(平成27年1月21日海大達第5号)

最短修業年限を超過した者を入寮選考の対象とすることに伴い、所要の改正を行ったものです。

■ 表敬訪問

国内

年月日	来訪者
27.2.6	株式会社日立製作所 代表執行役 執行役社長兼COO 東原 敏昭 氏
27.2.6	株式会社紀伊國屋書店 代表取締役社長 高井 昌史 氏



株式会社日立製作所 代表執行役
執行役社長兼COO 東原 敏昭 氏 (右側)



株式会社紀伊國屋書店 代表取締役社長
高井 昌史 氏 (右側)

(総務企画部広報課)

海外

年月日	来訪者	来訪目的
27.1.9	韓国科学技術院 (KAIST) Soonchil Lee 自然科学部長	両機関の交流に関する懇談
27.1.14	仁川大学校 (韓国) 朴 勝振 都市科学大学都市環境工学部教授	両大学の交流に関する懇談



韓国科学技術院 (KAIST) Soonchil Lee
自然科学部長 (左側手前から3人目)



仁川大学校 (韓国) 朴 勝振
都市科学大学都市環境工学部教授 (左側奥)

(国際本部国際連携課)

人事

平成27年1月16日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【講師】 (転出) 熊本大学生命資源研究・支援センター講師	鳥 越 大 輔	大学院獣医学研究科助教

平成27年2月1日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【部局長・施設長等】 スラブ・ユーラシア研究センター長 (期間：平成29年1月31日まで)	田 畑 伸一郎	スラブ・ユーラシア研究センター教授
【准教授】 大学院医学研究科准教授 高等教育推進機構准教授 (転出) 熊本大学大学院自然科学研究科准教授	中 村 幸 志 藤 田 良 治 深 港 豪	採用 総合博物館助教 電子科学研究所助教
【講師】 大学院医学研究科講師 大学院歯学研究科講師	真 崎 雄 一 有 馬 太 郎	採用 大学院歯学研究科助教
【助教】 大学院医学研究科助教 大学院歯学研究科助教 大学院理学研究院助教 北方生物圏フィールド科学センター助教	本 間 理 央 久 留 和 成 浜 向 直 三 谷 朋 弘	採用 佐賀大学医学部助教 採用 採用
【技術職員等】 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部助産師 北方生物圏フィールド科学センター	菅 原 昌 子 藤 原 華 代 吉 原 智 絵 松 村 朋 子 伊 藤 悠 也	北海道大学病院看護部助産師 採用 採用 採用 採用

新任部局長等紹介

平成27年2月1日付

スラブ・ユーラシア研究センター長に



たばた しんいちろう
田畑 伸一郎 教授

平成27年1月31日限りで家田 修スラブ・ユーラシア研究センター長が辞任したため、その後任として田畑伸一郎教授が発令されました。

任期は、平成29年1月31日までです。

略 歴

生 年 月 日 昭和32年4月13日
 昭和56年3月 東京大学教養学部卒業
 昭和58年3月 一橋大学大学院社会学研究科修士課程修了
 昭和61年3月 一橋大学大学院経済学研究科博士課程単位修得退学
 昭和61年4月 北海道大学スラブ研究センター助教
 平成9年3月 北海道大学スラブ研究センター教授
 平成16年4月 北海道大学スラブ研究センター長
 平成18年3月 北海道大学スラブ研究センター長
 平成24年4月 北海道大学国際本部ヘルシンキオフィス所長

訃報

名誉教授 やまもと 山本 ただし 正氏
(享年84歳)



名誉教授 山本 正氏は、平成27年1月25日逝去されました。ここに生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

先生は、昭和5年12月8日福島県に生まれ、同28年3月に北海道大学理学部動物学科を卒業、同年4月に北海道大学理学部助手となりました。昭和37年4月に講師、同40年3月に助教授、

同51年3月に教授へと昇任され、平成6年3月停年により退職、同年4月に北海道大学名誉教授の称号を授与されました。

先生は、昭和28年にメダカの卵形成の細胞化学的研究に着手して以来、一貫して魚類における生殖細胞の形成及び受精の研究に従事してこられました。なかでも最も力を注がれたのは「卵膜の受精に果たす役割の解明」と「卵が発生を開始する仕組みの解明」に関するもので、これらの研究は、下等脊椎動物の受精機構の進化と環境への適応を考察する上で重要な知見を提供されました。学術的に優れた数多くの業績は高く評価され、平成25年秋、瑞宝中綬章を受章されました。

学内においては、教養課程教育協議会委員、教養部教務委員会委員長等を

務め、大学行政においても多方面にわたり貢献されました。教養部学生の教育に尽力し、真剣に学生のことを考える温情あふれる指導により、学生から強い信頼を寄せられていました。また学部生、大学院生にも教育・研究指導を惜しまず、幾多の優秀な人材を世に送り出されました。また、学外では公益社団法人日本動物学会の評議員を務め、学会の発展に寄与されました。

以上のように、先生は動物発生学分野において多大な貢献をされ、多くの研究者の養成に尽力されました。

ここに謹んで先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(理学院・理学研究院・理学部)

編集メモ

- 立春がすぎ、暦の上では春となりました。少しずつですが寒さが和らぐ日も増え、積雪量も減ってきています。
- インフォメーションセンター「エルムの森」の前には、本年もさっぽろ雪まつりと時期を合わせて、雪像が登場しました。「エルムの森」のスタッフの力作は、多くの方が足を止め、写真を撮るなど、喜んでいただけたようです。





2013.2.9 釧網本線 五十石～標茶（標茶町）

北の鉄道風景 23 雪を蹴る

猛烈に発達した低気圧である通称「爆弾低気圧」が真冬の北海道に襲来する頻度が年々増え続けているような気がするのは筆者だけであろうか。爆弾低気圧が到来すると、太平洋側やオホーツク海側の少雪地方もドカ雪に見舞われることもある。降雪に加えて、猛烈な風が吹き荒れることで地吹雪が発生し、更にそれによって至るところに吹き溜まりができると、道路は通行止めになり、列車や飛行機は運

休になるなどの交通障害が発生する。この写真を撮影した日も、北海道に爆弾低気圧が接近しており、釧網本線のあちこちに吹き溜まりができていた。吹き溜まりの雪を蹴散らしながら冬季限定の観光列車「SL冬の湿原号」が駆け抜けてゆく。

情報科学研究科 准教授 山本 学

北大時報 ② No.731 平成27年2月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。http://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html